

## 会議総括「新潟アピール」 2009 日露エネルギー・環境対話イン新潟

2009年11月10、11の両日、ここ新潟市で、昨年に引き続き日ロ間のエネルギー・環境協力を推し進める話し合いができたことは、日ロ双方の関係者の熱意と多大なる協力によるものであり、主催者である新潟県、新潟市、ERINAより深く感謝申し上げたい。

さらに今回は、主催者の一員に国際科学技術センター（モスクワ）を迎え、技術的な側面にも踏み込んだ厚みのある議論をすることができた。

会議は、日露エネルギー協力を展望した後、地域開発協力、技術交流、地域間協力という3つのテーマに沿って、ロシア極東・東シベリアにおけるエネルギー開発、メタンハイドレート資源開発に関する日露の技術開発状況、地域社会におけるエネルギー活用という3つの分科会を開いた。

ロシアからは国を代表して極東連邦管区大統領副全権代表やエネルギー省エネルギー戦略研究所、駐日ロシア連邦大使、企業を代表してガスプロムやロスネフチなどが参加。日本からは外務省、経済産業省、国際協力銀行をはじめ中央や地方の産官学それぞれの専門家が参加し、日ロ双方にとって有意義な議論を重ねた。

今回の対話で出された意見を主催者として次の通り総括する。

### ●対話の継続。究極の目的は相互信頼である。

日ロ交流の経験とエネルギー利用技術が蓄積された新潟から、日ロ協力対話の成果をアピールする意義は大きい。このような場で培われる日ロ相互信頼は、これからのエネルギー・環境協力のみならず、地域社会への協力、ひいてはすべての日ロ交流の大きな推進力となる。

### ●対話の拡大。北東アジアエネルギー共同体の形成に向けた努力を。

北東アジア交流を推進してきた新潟から、この会議の成果をアピールする意義は大きい。東アジアおよびアジア太平洋は、地球規模のエネルギー・環境問題のカギとなる地域であり、この日ロ協力対話を基礎として、まず北東アジアのエネルギー・環境協力に向けて議論の輪を広げる必要がある。

### ●エネルギー供給能力の拡大、安定供給の実現は日ロ共通の課題である。

ロシアはエネルギー供給国として、日本はエネルギー需要国として、極東・東シベリアのエネルギー開発プロジェクトの実施、エネルギー供給能力の拡大、安定供給の実現は、日ロ双方に利益をもたらす。中央と地方、官と民、それぞれが応分の役割を果たしながら、果実を確実に還元できる仕組みを整えていかなければならない。

### ●地球温暖化防止に貢献する日ロ協力、地方交流を深めたい。

メタンハイドレートなど新しいエネルギーの開発、エネルギーの高効率利用、温室効果ガス削減などのイノベーション分野でも、日ロ協力のポテンシャルは極めて高い。新潟県における低炭素社会に向けた取り組みに見られるように、エネルギー分野におけるイノベーションは、技術開発にとどまらず、地域社会に技術を普及させるプロセスを含むものである。その意味で、地方政府（自治体）の役割は大きく、ロシア極東で始まる地域のガス化や電源の分散化などは、これからの日ロ地方交流にとって大きな柱の一つとなる。

両国政府、自治体、民間各層が今後、これらの取り組みを積極的に進めるようアピールする。